

野の仏ギャラリー⑨

勢至菩薩坐像

東多久町大通院(常應寺)

丸彫りの坐像で、正坐または跪坐の姿勢と考えられ、別造りの蓮華台があります。七葉に飾られた大きな宝冠を戴き、髪を高く結び上げ、ふくよかな顔です。天衣が肩から腕を経て膝まで垂れています。左手に開いた蓮華を持ち、右手は親指と人差し指の間に中指を挟んでいます。

銘「大勢至菩薩」「大正六年八月吉日」
「佐世保市上京町 施主 中野嘉市」



○菩薩は本来、悟りを開く前の修行中の者を称します。
○勢至菩薩は、偉大な力を会得した菩薩とされます。
○天衣はシヨール状の衣です。
多久市郷土資料館長 藤井伸幸

今月の論語

仕えて優なれば
則ち学ぶ

仕事に自信がついたならば、さらに勉強しなさい。

今月の福宅放送は、東原岸倉中央校9年の貞松光緒さんです

教育長コラム

ちよっとい話



「大丈夫です」と言わないで

中学生の彼は、徐々に休みがちになった。当時、今より更に未熟だった私は、不登校の勉強と家庭訪問しか手立てがなかった。

家庭訪問の際、壁のカレンダーが揺れ、大きな穴があるのに気が付いた。以来、頻繁に伺った。障子は破れが酷くなる一方で、やがて母親と玄関の外で話すようになった。毎回、別れ際に「心配はないかとお尋ねしても、うなずいて「大丈夫です」。でも、徐々に本人に会えなくなっていた。

とうとう、母の苦しみを聞き出すこともできず、登校させることもできなかつた。30年以上前になるが、今も心残りの傷として痛む。ただ、毎年母親が葉書に近況を書いてくださる。

現在は、スクールカウンセラー・スクールサポーター等、学校に多くの専門家を配している。教育支援センター「怒るーむ」もある。連絡を待っています。

教育長 田原優子

市民文芸

◆茶畑の晩霜除けの風車
みなかがやきて一斉に廻る
川浪 信子

◆俺のこと短歌に詠むなど夫の言う
老々介護ふたりの暮し
梶原恵美子

◆作品を創り続けた青年は
愛に包まれ時代を創る
野崎 隆幸

◆沖繩の歩み来し道哀しかり
首里城炎上同胞は哭く
浦野 嘉恵

◆磁器肌に藍色ぶどうの絵が映ゆる
薫作の杯でたしなむ焼酎
尾形 節子

◆銀杏落葉地の見えぬほど嵩ありて
武富 律子

◆遊べやと吾に寄り来る寒雀
本村 則子

◆鍋焼を囲み未来の話など
倉成 皓二

◆ポインセチア煉瓦倉庫の明り窓
富樫 明美

◆枯菊を焚く火の色を目文に
大石ひろ女

◆朝もやつき届く新聞温かい
田中 正春

◆新年の目標酒で太くなる
西山 残月

◆今年こそ何回云ったわが願い
東島すみ子

◆新しい嫁に姑しつけられ
大谷 和

◆旧姓がまだ活き活きとクラス会
田代まつこ

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

俳句 《互選》

川柳 《多久川柳会 互選》